

全ての人**希望**をもてる富山県の**明るい未来**

富山県議会議員 **尾山けんじろう**

県政報告

NO.1

令和5年8月発行

チャレンジ！！

尾山謙二郎です。

4月の富山県議会議員選挙では皆さまに本当にお世話になりました。ありがとうございました。

初めての選挙で5307票もいただけたのは、支援者の皆さまお一人お一人のおかげです。心よりお礼申し上げます。皆様からいただいた一票一票の重みを感じ、改めて身の引き締まる思いです。

これからがスタートです。皆様にお約束した仕事を、信念を持って富山県の未来のために精進する所存ですので、よろしく願いいたします。



視察

令和5年7月11日(火)～12日(水)

会派の視察で埼玉と東京へ行ってまいりました

- 1 **2024年問題**（働き方改革の一環で運送業界の年間残業時間が960時間以内となり現在の物流機能が場所によっては40%減となる）を踏まえ代替輸送案としてJR東日本が新幹線による貨物輸送の可能性を大宮駅をハブに検証している事業を視察してまいりました。

旅客目的の新幹線に貨物輸送の概念を搭載する。当然ながら多くの越えなければならないハードルはあると実感しましたが、鮮度が命の地場産品や医療関係に必要な緊急性の高い物資など一定の輸送需要との親和性は大きいと感じました。



- 2 中高一貫校で国際バカロレア認定校のさいたま市立大宮国際中等教育学校の視察をしてまいりました。偏差値教育から脱却し、自らが考えて答えを見つけだせる教育に軸足をおき、**生きる力を育む事**を主体としています。



私たちが慣れ親しんだ既存の教育システムとは異質の世界に大きなカルチャーショックを受けました。驚いたのは**私立ではなく公立であること**（日本一の教育都市を目指すしバカロレア認定校を作る事が現さいたま市長の2期目の公約であった）そして何よりも**先生と生徒の皆さんの顔が凄く生き生きとして楽しそうなのが印象的**でした。全ての生徒に居場所があり、不登校とは無縁の雰囲気です。

開校5年目により最上級生が5年生となり、大学進学への実績はまだ未知数ですが、学校の理念に誇りを持ち、壮大な社会実験にむけ生き生きと取り組んでいる先生や生徒の顔を見てると必ず大きな実績をあげていかれる事と確信をいたしました。

偏差値教育に行き詰まりをみせる現行の教育システムに対する一つの出口として大いに期待をしたいと思います。

- 3 文部科学省とこども家庭庁の方々と意見交換をさせていただきました。限られた時間の中、所管行政に違いはありますが少子化を止める事が最重要課題であるとの強い問題意識を参加者全員から感じました。

地方行政においても、1人の親父レベルでも取り組める事はまだまだありますので、しっかりと汗を流してまいりたいと思います。色々とお取り計らい下さいました田畑代議士ありがとうございました。



今回の視察を通して政治の持つ力と責任を改めて強く認識をさせていただきました。



1 県内におけるものづくり産業の将来展望と活性化戦略について

富山県には数多くの特許を有し、技術レベルが高く自社で原材料から完成品までをオーダーメイドで一括生産できる製造業者が多くあります。世界市場の「量」から「質」へのトレンドの転換を取り込むためには、プラットフォームが求められます。

2 県内のものづくり産業が独自の富山ブランドを創り出すプラットフォームの拡充について

富山の素材をメイドイン富山のブランドに昇華させ、世界市場へ売り込みに行く時に欠かせないのが3つの質の高い情報です。

①ニーズの把握 ②ワードネットワーク ③ローカルパートナーシップ

3 富山ブランドの世界市場への販路開拓について

2021年度の日本の対世界貿易額(輸出、輸入)は167兆円でした。日本の貿易額のおおよそ半分が20%の人口経済圏(ASEAN、「アメリカ・メキシコ・カナダ」からなるUSMCA、EU)によってつくられているのが実情です。今後の貿易のトレンドは経済安全保障政策の観点からも1つの経済主体に大きく依存せず、可能な限り多くの経済主体との取引を視野に入れる事が求められます。

4 県内観光産業の高付加価値産業化の必要性と戦略について

富裕層の受け入れ体制づくりは富山県においても急務です。県内の観光資源を高付加価値に磨き上げ、富裕層(いわゆるセレブ)が訪れたい日本一の観光地を目指します。セレブを対象にした観光のマーケットでナンバーワンを目指す事は、富山の有する素材を活用すれば十分に可能であると考えます。

5 顧客目線の観光資源の発掘発信について

富山県は食材、自然、文化などの素材に恵まれています。そして素材の良さが富山県の強みでもあり弱みでもあります。素材が優れているからこそ素材本来の持つ力で勝負をしようと思いますが、外国人のセレブ層が何に心を奪われ、何に価値を見出すのか、その顧客目線でいま一度、富山の観光資源を一から洗い直す作業が高付加価値コンテンツ造成のプロセスに必要と考えます。

6 キラーコンテンツとしての松川と富岩運河を接続する周遊ルートの創設について

富山市内を流れる松川は馳せ越し工事によって残された神通川の名残であり、まさに富山県の立県の理念である治水と利水の歴史を証明する川であります。その歴史的価値と富岩運河をつなげる事により松川から富岩運河を経由して岩瀬までの船旅を体験でき、岩瀬から松川までライトレールで戻る周遊ルートを商品化することにより、高付加価値の「キラーコンテンツ」を富山市内のど真ん中に作り出す事が可能となります。

7 文系新卒学生に富山を働く場所として選んでもらえる為の奨学金返還助成制度の拡充について

富山県からの転出超過が人口減少へ拍車をかけている中、とくに20~24歳の女性の県外流出が大きな問題となっています。県外流出は様々な要因があるとされていますが、大きな要因の一つが、働く場所、自分のスキルを活かせる職場がないという事です。

8 頑張った人がしっかりと報われ働きながらに受けられる職業訓練制度の創設について

現在の職業訓練制度の多くは企業に補助を出す仕組みであり、職業訓練受講の意思決定に企業側の利害が大きく絡む仕組みとなっており、労働者の自由意志によって受講の決定ができるものとは言えません。企業を介さない個人を対象にした県独自の職業訓練制度の創出が必要だと考えます。

